

学生支援システム

システム提案書

第 1.0 版

若草色.inc

平成 28 年 10 月 18 日

1 はじめに

大学生がより快適な学生生活を送るためには、自身の履修している授業の把握や学校からの通知を正確かつスムーズに行う必要があります。しかし、現状では自身の履修授業を含めたスケジュール管理を容易に行うことは実現しておらず、学生からも生活面でのサポートしてくれるシステムを求める声があります。自身のスケジュールを管理できるようになることで、授業への遅刻・欠席などがなくなり、学生がより学業に専念することができるようになります。今回は、それを実現させる為の方法を提案させていただきます。

私達が提案する内容として、学生の履修授業や学校からの連絡に関するデータベースと連携するアプリケーションを学生向けに提供することで、学生がスマートフォンを用いて容易に履修授業・学校からの連絡に関する情報を受け取る環境を実現させます。

これにより学生の生活面でのサポートを行い、自身のスケジュール管理をスムーズに行える学生の育成と学生の成績向上を図ります。

2 解決できる経営課題

既存学生支援システムのユーザ満足度の向上

3 課題解決のための提案

本提案書では既存学生支援システムの学生向け情報閲覧のための Android アプリシステムについてご提案いたします。

既存の学生支援システムと連携した Android アプリを作成し、このシステムを利用している学生がこのアプリをスマートフォンにダウンロードすることで、容易に情報の閲覧を行うことができます。

4 課題解決のための方法

このシステムには以下を導入いたします。

- 既存学生支援システムに対応した Android アプリ
- 学生情報を管理するデータベースシステム

5 機能概要，前提条件

5.1 機能概要

(1) 当日の授業情報

当日の時間割がトップページに表示され確認できます。

(2) 履修登録情報

Web 上で登録しておいた履修情報の一覧が確認できます。

(3) 成績

自分の成績を確認できます。成績の表示は「科目区分別単位修得状況」「年度・学期別単位修得状況」「期間 GPA」の3つの表示方法を選択できます。

(4) お知らせ

学校からのお知らせを閲覧できます。お知らせごとに項目分けしています。

(5) リンク

学校の関連ホームページをブラウザで開くことができます。リンクは「シラバス」「KUTLMS」「WebMailService」の3つです。

(6) テストカウントダウン

手動で設定しておくとし、テストまであと何日かを表示してくれます。

(7) 設定

このアプリのテストカウントダウン機能の設定と画面の見た目の設定ができます。

5.2 前提条件

作成したアプリをシステムを利用している学生にダウンロードしてもらう

6 情報の流れ

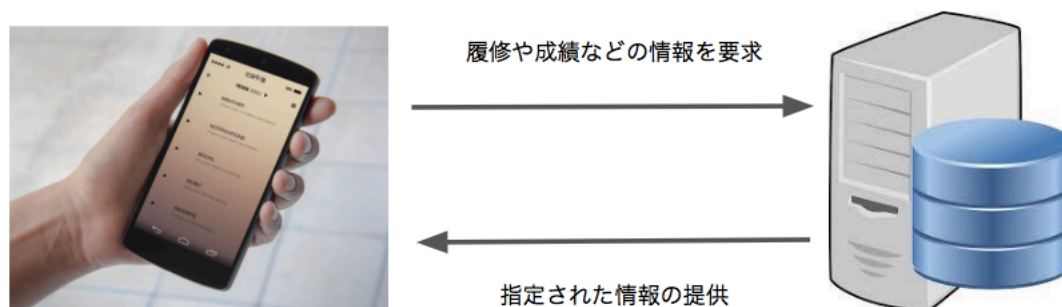


図 1: 情報の流れ

システムとしては、まず大学 PC で使用されているユーザ名とパスワードを用いて登録してもらいます。その後、その日の講義一覧やお知らせ、成績などが閲覧できるアプリとなっています。Web 上で履修を変更した場合にも、即時反映できるようになっています。

7 システムインターフェイス

このシステムはデータベースに SQL を用います。

8 想定する利用者

このシステムの想定する利用者は次の通りです。

- 学生：Android 端末を所持している生徒

9 システムのハードウェア，ソフトウェア構成

中心サーバ：1 台

10 導入・移行計画

2016 年 1 月 15 日を持って，このシステムを導入します。

11 運用・保守

- (1) 通常時の運用は，管理者が行います。
- (2) 故障発生時には，保守会社が行います。
- (3) システムの運用スケジュールは以下の通りです。

月～土曜日

ログイン機能，データベースのシステム稼働

日曜日

メンテナンス（システム停止）

12 作業標準

システム開発に掛かる作業標準は御社ご指定のものを使用します。

13 品質管理

システム開発に掛かる品質管理手法は御社ご指定のものを使用します。

14 工程計画

設計完了日：2016 年 10 月 24 日

開発完了日：2016 年 11 月 24 日

試験完了日：2016 年 12 月 24 日

導入完了日：2017 年 1 月 24 日

15 体制

本システムの開発は、弊社のプログラマ 8 名で構成したチームが実施します。

16 システムにかかる費用とその効果

17 システム提案のアピールポイント

本システムを導入することで、学生が自身の履修授業や学校からの通知を容易に確認することが可能になり、学生の大学生活をより快適なものにすることができます。

また、大学からの授業やイベントに関する情報の伝達を以前より確実なものにすることができます。